



Vol.3

手稲山の恩恵を受けた 手づくり豆腐

J ていねい 手稲駅のある札幌市
手稲区はベッドタウンと

して発展してきました。手稲駅は北海道内で札幌駅に次いで2番目に多い利用者数を誇り、ラッシュ時には駅の周辺道路も大渋滞となりますが、道路は春盤目状に整備されており、ラッシュ時以外は閑静な住宅街へと変貌します。

そんな住宅街の一角に、特定非営利活動法人はるな会が運営する地域活動支援センター「はんど&はんど」手づくりとうふ工房「豆の生活」が店を構えます。白地の建物とインジ色の文字の暖簾が住宅街の中で映えています。

豆腐屋

はるな会では、地域活動支援事業や就労支援事業の二環として、「手づくりとうふ工房」運営事業が位置づけられ

ています。利用者は現在10数名おり、フレックス制で業務に携わっています。支援員の三上智史さんに伺いました。

「メンバーには、体調を考慮しながら1日5時間を目標に勤務してもらっています。日によっては、朝の5時から仕込みをすることもありますが」

朝5時といえば一般的にはまだ就寝時間ですが、とても早い時間帯から作業されていることに尊敬の念を抱きます。

「市販されているブランド豆腐に、追いつけ追い越せ」という気持ちで作っています。単価は高く設定していますが、それに

見合うだけの品質を確保することで、共感していただけるお客様を増やし、そのニーズに

応えています。利用者は現在10数名おり、フレックス制で業務に携わっています。支援員の三上智史さんに伺いました。

「メンバーには、体調を考慮しながら1日5時間を目標に勤務してもらっています。日によっては、朝の5時から仕込みをすることもありますが」

朝5時といえば一般的にはまだ就寝時間ですが、とても早い時間帯から作業されていることに尊敬の念を抱きます。

「市販されているブランド豆腐に、追いつけ追い越せ」という気持ちで作っています。単価は高く設定していますが、それに

見合うだけの品質を確保することで、共感していただけるお客様を増やし、そのニーズに

応えています。利用者は現在10数名おり、フレックス制で業務に携わっています。支援員の三上智史さんに伺いました。

のニーズに



10月の限定商品「春菊のふわ」(上)と12月の限定商品「なめこのふわ」(下)。季節によって旬の食材を使っている。各280円。



きたいです」と三上さんは前を向きます。

「ブランディングのために

商品のラインナップは、とうふ、油揚げ、おから(おからパン、おからかりんとう)と

なっていますが、やはり主力はとうふでしょう。とうふにも、

よせとうふ(250g、280円)、もめんとうふ(300g、

380円)、絹とうふ(400g、380円)など数種類あります。午前中には大部分

が売れ、午後にはほとんどが残っていないほど好評のよう

です。

当初は近くの病院が大きな販路だったようです。その後、料亭などからも注文が増えてきたとのことですが、やはりとうふの品質のよさが背景にあるのでしょう。ゆくゆくは一般流通もできればと写真を描いているそうです。

この街でこのように生きていくのか

メンバーは地域のゴミ拾いや廃品回収などの行事に積極的に参加しており、「福祉

の

の



商品パッケージともリンクしたデザイン



白を基調とした店内は清潔感あふれている



ラッパ販売時にも使用。これなら防犯効果も抜群

です。

「宮城県のはらから福祉会さんからノウハウを学びました(WAMN

ET「はたらきパーク」にも掲載中

<http://www.wan.go.jp/ca30/shutosien/co2.html>)。はらから福祉会さんからは豆乳も購入し、高品質のとうふの製造

につながっています」と三上さん。

当初は近くの病院が大きな販路だったようです。その後、料亭などからも注文が増えてきたとのことですが、やはりとうふの品質のよさが背景にあるのでしょう。ゆくゆくは一般流通もできればと写真を描いているそうです。

この街でこのように生きていくのか

メンバーは地域のゴミ拾いや廃品回収などの行事に積極的に参加しており、「福祉

の

の

の

の

の

のカベが開かれてきた」(三上さん)とのことで、祭りにも呼ばれています。お客さんとのふれあいも大切にしているので、取材時も近所の子どもたちが店内におしゃべりに来ていました。「おにちゃんたち

はとつてもおもしろいんだよ」と常連さんのようです。

また、ラッパ販売も定期的に行っており、「お年寄りには懐かしさで好評ですし、防犯にもつながるとのことです。子どもにはめずらしがられるし(笑)」と三上さん。今後は

自転車でのラッパ販売も増やし、より密接に地域にかかわるとのことです。

これからの季節は湯豆腐が恋しくなります。はるな会

のとうふは湯豆腐にももってこいです。

この街でこのように生きていくのか

メンバーは地域のゴミ拾いや廃品回収などの行事に積極的に参加しており、「福祉

の

の

の

の

の

特定非営利活動法人はるな会 地域活動支援センターはんど&はんど
手づくりとうふ工房 豆の生活

住所 〒006-0833 北海道札幌市手稲区曙3条1丁目10-8

TEL&FAX 011-691-8787

e-mail hand-s@lapis.plala.or.jp